

圏外のアンテナ

[壁を破る]の巻

先々週、「10秒の壁」がついに破られた。桐生祥秀選手が、夢の9秒98をマークしたのである。

ニュースでは、欽ちゃん走りで大喜びする桐生の姿とともに、ヒエ〜！と、どよめくスタジアムの様子が印象的に映し出された。

それを見たわたしは、あれ！ 自分もこれと同じ、歴史的瞬間に立ち会ったことなかったっけ？

そうだ。あれは、ソウル五輪の前年（1987年）の秋、国立競技場で開かれた「東京国際ナイター陸上」だ。全盛期のベン・ジョンソン選手の出場もあって、前評判の高い大会だった。

レースは、ベン・ジョンソンの圧勝。だが、2着の不破弘樹選手が10秒33をマーク！ 満員の観客は今回と同じ、19年ぶりの日本新記録を目撃した。

実はその夜、北側スタンド中段に陣取っていたわたしは、ひとつの計画を胸に秘めていた。もしも記録が出たら、アメリカ映画ではよく見るが、今まで日本で見たことのない「ウェーブ」ってやつを起こしてやろうと目論んでいたのだ。

レース後、わたしは前後の観客に声を掛け、両手を大きく上げて立ち上がった。

おそらく、その動作を4、5回は繰り返したと思う。

最初は反応も悪く、ブロック間の通路で消滅していた波が、何度目かのタイミングで、右隣りのブロックにぴよんと飛び移った。

すると、そのまま、ドミノ倒しのような人の波が、生き物のようにぐるぐるとスタンドを周り始めた。

30年前の秋、それまで拍手中心だった日本の応援文化の分厚い壁を、最初にこじ開けたのは、このわたしである！

もともと、必要だったのは、桐生選手のような努力でも才能でもなく、調子のよさと度胸だけ。一体何を自慢してるのよ？とは思いますが。

世の中には、天才が破る壁もあり、お調子者が破る壁もある。壁は破られるために存在している。

=2017年9月22日掲載=



解体前の国立競技場。不破選手の日本新記録はここで生まれた